

第1回 被災地に学ぶ会

(=第55回大阪便教会)

活動報告



宮城県石巻市雄勝町

2011.7.8-10

【第1回 被災地に学ぶ会 行程表】

7月8日(金)	18:30	受付終了者からバスへ乗車 ※満席の為、洗面具等必要なもの以外の荷物はバストラックへ入れてください。
	19:00	バス発車
	20:30頃	滋賀県多賀IC(30分休憩) = 滋賀(3名)、三重(4名)合流 ※途中約2時間おきにトイレ休憩をします。 ※被災地ではトイレがあまりありません。 石巻到着前のサービスエリアでトイレを済ませておいて下さい。
7月9日(日)	7:30	専修大学石巻ベースキャンプ到着 ※作業できる服装へ着替えて下さい(バス内) ※活動場所説明を受け→現地で班分けをします。
	8:00	活動場所へ班単位で移動 ※必要なもの以外の荷物はバス内へ置いておして下さい。
	9:00	活動開始
	16:00	活動終了 ※帰りのバスが汚れるので、長靴からサンダルに履き替えるといい。
	17:00	石巻ベースキャンプに集結→銭湯へ出発
	17:30	入浴+夕食(+お土産購入) ※帰路のサービスエリアでお土産を購入できるかわかりません。 ※石巻の経済効果に協力しましょう。
	19:00	バス出発(帰路)
7月10日(月)	8:00	新大阪到着 解散

参加者	43名	男性	35名	10代	2名
教師	25名	女性	8名	20代	23名
会社員	2名			30代	7名
学生	15名			40代	9名
				50代	2名

第一回「被災地に学ぶ会」体験記

★★奈良県30代 女性★★

作業するおうちの前に来た時は、怪我をしたりしんどくなったりして他の人に迷惑をかけないようにでも、少しでも足を引つ張らないようにと思いました。けれど、玄関に立った時、私は今から土足で、しかも他人の私が入るんだ・・・と申し訳ない気持ちになりました。入ると部活の連絡網が目に入り・・・足が止まりました。

燃えるものと燃えないものの分別・・・とはいうもののどれもこれも、ここにすんでいた方々のかけがえのないもので・・・証。

何度も手が止まりました。

涙なのか汗なのかよくわからないままふつうと顔をあげたら、一緒にバスに乗ってきた人達が作業をしていました。いつもどなたかがここにいて同じように作業をされている、そう感じるとなんだかすごく心強くなり、作業に戻れました。本当に感謝です。それを何度か感じるうちに、手に取るものから目をそむけず自分だったら大事に置いておきたいなあと思うものはこっそり写真ゾーンと一緒に置いておけるようになりました。どうか、手に取って「ああ、これ・・・。」と思ってもらえますようにと願いながら・・・。

今回一緒に参加させて頂いて本当に有り難か

ったと思います。一人ではここまで来ることでもできなかったですし、なにより、作業をするためにいろんな方が様々な用意をしてくださることに驚きました。お世話になったのは私の方でした。本当にありがとうございます。

大谷先生がバスの中で「丁寧に仕事をしよう」とおっしゃった言葉がこれほどまで自分に迫ってくるとは思いませんでした。参加できることになった時、こうやって、行かせてもらえらのだから、少しでもテキパキ動いて・・・と思っていました。でも、大谷先生がおっしゃるようになつた物に、ここに、このおうちの方々の生きてきた足跡があり、生きてきた証があつて・・・。それを他人の私が燃える・燃えないにわけ、袋に入れる辛さ・・・。私が袋に入れたらこの方々の手元には届かなくなってしまうのかもしれないと・・・。だから 実は何度もこっそり袋から出してはこっそり置きにいていました。どんな物も他の人にはわからない大切な大切なもののような気がしてなりませんでした。大谷先生の言葉の意味が痛いほど感じました。

それから、こうやって来させてもらい、全ての環境を整えてもらっていたこと、
トイレがあるわけ・・・
テントがあるわけ・・・
そんなことを思うと、たった1日だけでは、でき

たことより、していただいたことの方が多く・・・。だから、また、チャンスがあれば教えて下さい。参加させていただけたらと、とても、思っています。

今回は、心に全く余裕がなかった自分に帰りのバスで気づきました。帰りのバスでの全ての方の一言は、私が見られなかった、聴けていなかったことでした。そこでもまた、私には学びがあり、行かれた方のすごさも感じました。他の方は現地の方の言葉を聴き、金先生はおばあちゃんともつながりを作られ・・・。本当にすごいなあと思いました。

★★奈良県40代 女性★★

初めて被災地に行かせていただきました。まず、ご一緒させていただいた皆さんとの出逢いに心から感謝いたしております。

被災地で作業をさせていただき、もう終わり・・・というとき、熱いものがこみあげてきました。私たちは間違いなく「チーム」でした。そのチームの一員になれたことに感動し、また仕事が終わることに、寂しささえ感じました。皆さんの志の高さに、刺激を受けました。ありがとうございます。

また、今回、バスをチャーターしていただいた

こと、前日には下調べまでしてくださったこと、現地では、テント・椅子・飲み物・仮設トイレ・湧水なども用意していただいたこと、すべてに感謝です。

初めて被災されたお家に入らせていただき、被害を受けた大切な品々、一つひとつを手にし、たまらない気持ちになりました。そこには生活があり、住んでおられた方々の想いがありました。それを思うと、土嚢袋に入れていくことに心が痛みました。この思いをずっと忘れないでいたいのです。

大川小学校では、子どもたちの声が聞こえてくるようでした。津波にのまれ、苦しんだ子どもたちのことを考えると胸が張り裂けそうでした。しばらくは声が出ませんでした。

今回のことをお声掛けしていただいたときに、息子たちに相談しました。

「お母さん、石巻に行こうと思うんやけど。」すると長男がこう言ってくれました。

「オカンは、伝えるべき立場の人間やから、行った方がええで。」

さて、私は今回経験させていただき、クラスの子どもたちに何を伝えることができるのでしょうか。一番伝えたいと思ったことは、

「あなたが大好き。あなたが大切。」

・・・被災地に行つて、強くそのことを感じた。」ということでした。

そして、今回、私が体全体で感じたことを素直に伝えたいと思っています。またぜひ被災地に行かせていただきたいです。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

★★★大阪府30代 男性★★★

「瓦礫に見える物でも、持ち主の人には大切なものです。時間がかかってもいいので、丁寧に組みましよう。」

この言葉が耳から離れませんでした。

そうやって想いながらやろう！つと思ひ取り組みましたが、現実には厳しく心が折れそうになりました。

「後、〇時間したら帰れる…」そう思っている自分がいきました。匂いや感触、ハエ、津波の恐ろしさから目の前のことが自分とはつながらないと思えました。

そんな中、休憩時間に休憩場所を用意してくださった【日本を美しくする会】の方々がいました。被災者でありながら、自分のやることを見つけ本気で取り組まれている方々がいました。

一日しか作業しない私に対しても、「ありがどう」

「助かった」などと声をかけてくださいました。自分は本当に学ばせてもらってるなあ。自分は

本当に弱い、でも多くの人との出逢いで大きくしてもらっているなあ。自分は本当に…と、何度も考えました。自分にできることを丁寧に心を込めてする。これだけだとかんじさせられました。

掃除をそれから前向きにというのか、自分のペースで。と思ひ取り組むと、以外とはかどりました。それに、掃除でピカピカになってくると気持ち明るくなりました。掃除にはやはり大きな力があると感じさせられました。

明るい雰囲気の中には希望であったり、

夢であったり、

幸せであったりが隠れて待っているように感じました。

今回の学びの深さは計り知れませんが、自分に大きな影響を与えてくれました。知ることには大切ですが、でも、本物を見て感じるのとはつと大切なかもしれない。被災地で見たこと触れたこと、感じたこと、どれも本物です。

自分は教室で子どもたちに伝えていくくらいしかできません。もつともつとつなげて取り組み考えていけるようになります。そのためには自分もたくさんを学ばなければいけないと実感しました。ありがどうございました m(_ _)m

何もやらないより、やったほうがいい。考えて行動するのではなく、行動してから考える。どれ

も実践していきたいです。今後もより多くの学びを

今回、一緒に活動したみなさまに感謝し、出逢いを大切にしていきたいです。ありがとうございました。

★★大阪府30代 男性★★

今回の東北では瓦礫撤去のお手伝いをさせて頂いた

もう四ヶ月が経とうとしているのに手付かずの家や工場も未だ多くある

がんばっていないのではなく、完璧な人手不足国も復興ボランティアバスなどをもっと出せばいいのにと感じた

現に今回も参加したいのにバスに乗れなかった人が二十名もいる

そんな方達の思いの上に、そして様々な方のご準備の上に、

我々はただただボランティアをさせて頂いた、まさにそんな言葉がぴったりである

まるで子どもが遠足にいくような、それくらい準備を現地の日本を美しくする会

の方々がお膳立てしてくれていたお手伝いさせて頂いた場所にはテントが貼られ、

山の水が引かれていた

この山の水、日本を美しくする会の方々のために雄勝町の方が十数年ぶりに引いてくださったそう

うだなぜか？

日本を美しくする会の方々は雄勝町が山の奥にあり、誰もいかれていないのでそこを支援することに決めたそうです

雄勝町とその集落で復興作業が始まるに当たり仮設トイレが一つ作られました

そこを通るたびに、日本を美しくする会の方々が黙って掃除をされたそうです

くる日もくる日も掃除をされたそうですそれに気づかれた集落の方が感動し、信頼され、

そこに水を引き、テントを立ててくれたそうです誰もみていなくとも目の前の出来ることにもく

もくとたんたんを取り組まれた方にただただ頭が下がります

瓦礫撤去をして一番感じたことは、ガレキは瓦礫ではないということ

です服や家電、表彰状や日記、手紙やちよつとしたメモ書き

そこには生活の跡がたくさんありました瓦礫ではなくその家の方々の生きた証

それを瓦礫として撤去する辛さ

津波から四ヶ月

海水をすっかり含んでいるので臭いもきつく、ハエなどもすぐく、

行ってみないと感じられないことがたくさんありました

文字にすればするほど、写真で伝えようとするほど伝わらない

本当のことは伝わらない

そんな感じです実際に泥まみれにならないと気づかないことがたくさんあります

やはりチャンスがあれば行くべきやと改めて思いました

最初の休憩への移動中、一輪車に大きな鍋をのせて、運んでいるお婆さんがいました

その方に声をかけて、鍋をその方の家まで運ばせていただきました

運びながらいろいろな話をしました

お婆さんの年齢は六十八歳

話の中でお婆さんが語ってくれた夢の話

お婆さんの夢に心が熱くなりました聞きながら、以前聞いた松崎運之助先生の話の意味がようやく少しわかった気がしました

おばあさんは言いました

「この鍋はね、今朝、山でとった竹の子を料理して皆さんに食べてもらおうと思ってね。私が作った料理を食べて美味しいって言ってくれるとうれしいから。私は頭も悪いし、体力もお金ない。だけどこうして少しでも人の役に立ちたいの」

「私の夢聞いてくれる？それはね、生きた証を残したいということ。ものを作るのが好きだからね、宮城県の学校で山しめじをね、作ってもらえたらなあと思ってるの。少ない年金だけどそんなことにお金を使うの」

僕はお願いをして、大阪でそのしめじを育てさせてくださいと言いました

するととても喜んでくれました

結局一時間ほどお話をしました

頂いたご縁に感謝しました

心が温かくなりました

話しながら感じました

被災者の方はたくさんの方に感謝されている

被災者の方はありがとうございますと伝える

しかし、被災者の方がありがとうございますと言われることは少ない

これが松崎先生が言われていたことかもしれませ

人が人らしく生きるのは人のために動ける幸せを感じたときかもしれません

自分はボランティアに行き、ありがとうございますをもらっているが、被災された方にありがとうございますを伝えているのか

そう考えると被災者の方の心には少しも寄り添わずに偉そうに手伝いに行っているだけかもしれません

次行った時には、被災者の方にありがとうございますを伝える活動を考えてみたいですねそれが大切なように感じました

次のバスに乗るまでに、自分にできることを考え、実践できるように準備します

ありがとうございます

★★滋賀県 40代 男性★★

阪神淡路大震災の時は大学を卒業してすぐでした。実家から近いこともあり、身近な人が被災されたこともあり、就職する4月までは家業を手伝いながら走り回っていたのを思い出します。3月には須磨の中学校でボランティアをしました。震災後2ヶ月足らずですが「頑張ろう神戸」を合言葉に全国の有志が一丸と復興支援をしました。避難されている方はいたって明るく、復

興への兆しが感じ取れました。

今回、宮城県へ行って、阪神淡路大震災の比では無いということがわかりました。4ヶ月が経とうとしますが、手つかずの廃墟が未だあちこちにあります。畳や衣類に至るまで全てが浸水しているので、腐ってウジが湧いている。作業をしても休憩をしてもハエに追われる。そして腐乱臭。このような中で作業は困難を極める。普通の精神状態なら前向きに作業するのは難しいだろうが、さすがに教師塾や便教会でハンズオン（率先垂範）指導されてきた方々なので、黙々と頑張っておられたのが印象的でした。普段、便器の汚れに向かい格闘されてきた能力が存分に発揮されていたと思います。

ただ、今回参加された精神的・肉体的にも前向きな精鋭が40人以上で作業をしても、1日で家1軒分しかできなかったことを考えると重機が圧倒的に足りないだろうということを思わざるを得ません。

日本地図を見る限りでは、阪神淡路大震災の時は被害の大きい三宮や西宮など約20km圏内が被災地だったので、西宮から10km程の梅田では、地震のあった翌日から映画を見に行く人がいるなど、すぐに普通の生活が営まれました。被災された方もとりあえず大阪などへ買い出しにきては帰宅するという生活ができました。梅田な

ら徒歩や自転車ですべて支援物資を持っていくこともできません。そして、大阪や京都、奈良、姫路、岡山など近隣大都市の社会福祉協議会などが神戸のためだけに出勤するという体制がとれました。長期間、神戸への支援物資を積載した車両が渋滞していたのを覚えています。つまり、阪神淡路大震災のときは神戸1点に近隣諸都市の支援エネルギーを集中することができた訳です。

しかし、今回は津波による被害ですので、東北の太平洋沿岸一帯が被害を受けています。内陸へ4、5kmの沿岸部だけだとしても南北に約400km以上に及びます。支援しやすい近隣の都市といっても、関西のように大都市が密集しておらず、例えば大都市である東京・横浜から仙台までの直線距離では300km以上も離れています。神戸大阪間が約25kmですから、東京仙台間はその10倍以上離れています。梅田を起点に考えるなら富山や広島、静岡にいくようなものです。

さらに関東の諸都市では地震の後も放射能の風評被害のため、市民の不安を解消するための労力を使わざるをえない状況が現出しており、この夏からは節電のためさまざまな産業界へのダメージが現出しています。その他の都市も同様の問題を抱えており、被災地ほどでは無いにしても非日常生活を余儀なくされており、なかなか東日本復興に向けて一致協力するのが難しい状況です。

1被災エリアが広い（一点集中できない）
2被災地と近隣大都市が離れている
3地震の後も近隣諸都市が放射能の風評被害や節電により日常生活ができない

以前、報道で被災地の方の「我々は見捨てられた」というようなコメントを見たことがあります。関西で見るときは、そんなこと無いのになあと感じましたが、復興支援が進まない現状を目の当たりにするとそう感じざるを得ないのも理解できます。

我々も津波被害による今回は阪神大震災とは全く別物と考え、息の長い復興支援をする必要があると感じました。例えば、毎晩夜行バスを走らせボランティアをピストン輸送するなど、手軽にボランティアできる環境をつくれれば、今回のように多くの方が参加されるのではないかと思います。そして、多くの方が被災地の現状を目の当たりにすれば、ロコミなどを通じて健全な世論が形成され、新たな復興支援も産まれるのでは無いかと思えます。

復興が現地の状況をふまえず、遅れば遅れるほど被災地の方々の気持ちも病んでくると思えます。まず、廃墟を片付けるにも日本にある重機の数には限りがあります。さらに、阪神淡路大震

災に比べて支援がしづらい状況にもあります。政治家の先生方には現状を知った上で重機の配分を考えて頂く、風評被害を食い止める、節電をこの夏は控えるなど高所からの対策を打っていたが必要があるのではないかと思います。

最後に、今後の復興を考えるなら、今回参加された精鋭以上の存在はやはり自衛隊しかありません。以前に胸まで泥水に浸かって懸命に搜索されている写真を見たことがあります。その時は気がつきませんでした。どんなに臭かっただろうと今更ながら感じました。調べてみると、ご家族が不明であるにもかかわらず、市民の搜索が優先されるので搜索の願いを出されていない隊員もいると聞きました。そのような方で我が子と同じくらいのご遺体を見ては隠れて泣いている隊員もいると聞きました。日本の最も厳しく危険で汚い状況を黙々とハンズオンする彼らの存在を考えると、心からの敬意がわき起こるのを感じます。そして、このような機会を与えて頂いた、日本を美しくする会の皆様、本当にありがとうございます。

★大阪 40代 男性★
この度の被災地に学ぶ会、何から何までお世話をいただき、貴重な学びをいただき、大変ありが

とうございました。振り返りますと、身体一つで行かせていただき、被災地のしかも沿岸部での活動を段取りしていただき、本当に「させていただけ」で、「ありがとうございました」、この言葉しかありません。

疲労感はありません。達成感などまったくありません。充実感もありません。虚しさ、無力さを今更ながら感じています。

仙台に入り、東部道路の沿岸部から景色が変わりました。地震ではなく、津波被害。今回の震災は津波被害。

石巻に入り、喜田先生の活動報告とDVDでの事前学習と大川小学校。DVDで映し出されている、まさにその地の横をバスが通過したとき、衝撃でした。心から悲しみを感じました。大川小学校が目の前にありました。

大川小学校に合掌できた事、自分の人生ですと大切にしたいと思いました。

峠を越えて、雄勝の地に入ると・・・瓦礫の数々、何もなくなつたという言葉しか浮かびません。こんな奥まで・・・。

快晴とも言う青空と、夏の日差し、海を眺めれば美しい景色と穏やかな海、うみねこ、カモメ、本当に穏やかな漁村でした。しかし、陸には壊れた家々・・・。何もなくなつた町・・・。

そこには、穏やかな海や景色同様のごく普通の

生活があつたはずなのに、一瞬で何もなくなりました。本当に衝撃でした。

今回ご参加のみなさん全員で片付けをさせていただきます。

大谷先生が“丁寧にやりましょう”といわれました。片付けをしながら、反芻しました。確かにそこにはごく普通の日常生活の痕がありました。もし自分の家だったら・・・、自分の物だったら・・・、虚しさがこみ上げてきました。“丁寧にやろう”反芻しました。

かの地に立ち、自分の目で見て、肌で感じてこそわかることや感じることもあると真剣に思いました。

今は、疲労も感じることなく、現実を目の当たりにしての虚しさや無力さが残っています。

とにかく、させていただく、次もさせていただく機会をありがとうございます。汗をかいて、学ばせていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。本当にありがとうございます。

★滋賀県 40代 男性★

今回は貴重な学びの場を設けていただき、本当にありがとうございます。ボランティアが学びで

あることは周知の事ではありますが、今回はどれだけ感謝してもしきれないほど私にとっては大きな大きな学びとなりました。

その学びとは、「時間の流れは、人それぞれによつて違う」ということを学んだことです。時間とは命です。つまりは当たり前ですが「人はそれぞれ的一生を生きている。だからこそ、人の身になって考えることが、いかに大切か」ということを再度心に刻印し直せたということです。

被災地である石巻市雄勝町に行かせていただき、ある民家の泥出しや家財の整理を手伝わせていただきました。確かにバスからの光景などを見る限りは、重機などが入り大きな建物の整理などは進んでいる印象を受けないこともありません。しかし、私の入った民家は3月11日のままでした。時間が止まっていました。大切な写真や、思い出の品も、仕事道具も、全てそのままでした。決して運び出せなかったわけではないでしょう。でも、辛いでしょう。まだ、直面するには勇気がいるでしょう。そして、まだまだ今日というこの日一日を生き切るだけで精一杯なのでしよう。

そう思うと涙がでてきました。と同時に、自分の普段の生活における人への思いやりのなさや、わがままな自分勝手な思い込みに、情けないくらいに気付かされました。

私は勝手に思っていました。「もうあれから四ヶ月も経ったんだから、だいぶんましになってるんじゃないか」「復興もそろそろ軌道に乗り始めてるんじゃないか」「そう、あれから四ヶ月も経ったんだから…」

自分達が過ごしてきたこの四ヶ月。被災者の人たちが過ごしてきたこの四ヶ月。同じに考えてました。いや、自分達本位の時間で考えてました。本当に大きな間違いをしていました。

石巻市雄勝町の方々に教えていただきました。人は皆、違う。だからこそ、お互いを理解し、助け合わないといけない、と。ありがとうございます。

★★★大阪府 50代 男性★★★

ひとりひとりの強い思いが行動となり、その実践がつながりを持つとこんなにも素晴らしい活動になるということを身を持って学ばせて頂いた3日間でした。

私自身、今回、被災地に行くのは2回目でした。第1回目は、石巻専修大学・硬式野球部に野球道具などを届けるために行きました。ひとりで車を運転し、被災地に物資を届けるためでした。つながりのある方々やスポーツメーカーなどに声をかけさせて頂いたところ、実に多くの野球用具・

日用品などをご提供して頂きました。そしてそういった方々の思いを積んで石巻に向かいました。そして到着し、石巻専修大学の監督さんや学生達と初めて顔を会わせ、その笑顔やお礼の言葉を聞き疲れが吹っ飛びました。そして「させて頂いて良かった」と心から思えました。石巻の部員の中には津波で家を流された学生もおられました。そういった苦労はまったく見せず笑顔で出迎えてくれました。

何のつながりも無かった私と宮城県・石巻。今そこに住まわれている方々とのご縁が深まっていくのを感じます。

そして今回、本学4回生野球部員と参加させて頂けることになるとは正直思ってもいませんでした。私自身がやりたくてもなかなか実現させる事が出来なかった事が、日本を美しくする会のご理解・ご支援、多くの先生方の強い思いがこのように13名の部員と共に参加させて頂ける事につながったのだと感じました。

そして行きの中では、三重県の喜田先生の活動報告・DVDを見せて頂き、また金先生からも現地での実践報告や、クラスの子供達と被災地の方々との文通の話聞かせて頂き、改めてこれから被災地に向かう覚悟が決まりました。そして、こうやってボランティアに参加できることに感謝できることが本当のボランティアの意味があ

るのだと感じました。

朝方、バスが被災地に差しかけたあたりから道の状態も悪くなり、あたりの景色が一変しました。私自身、前日も見た光景でありましたが、何度見ても胸が締めつけられる思いでした。初めて参加された先生方、学生達も実際にその光景を目の当たりにすると言葉が出ないくらい衝撃を受けておりました。

今回は、今後取り壊される1軒の家を片付けるという作業でした。現地に到着すると、前日から我々のためにご準備をいただいております。日本を美しくする会の阿部さんはじめ、ボランティアの方々が笑顔で出迎えて頂きました。まさに、いたせりつくせりの準備をして頂いている現地で作業をさせて頂けることへの感謝が強くなりました。

そして、実際に現場に入り、足の踏み場もない現状を目の当たりにしましたが、すぐに全員が引き込まれるように片づけを始めました。実際にその家に住まわれていた方も知らない、静かな海からは想像もできない巨大津波の大きさ、初めて経験するような想像を超えた現状、作業の割り振りをさせて頂き、マニュアルのない中で、あるのは「一人ひとりの強い思い」でした。ボランティアに来たということなど感じないほど一人ひとりが夢中で汗を流していました。まさに「流汗洗心」と

はこういうことなのだと改めて強く感じました。そして数時間後には家の中がすっかり片付いた事との引き換えに、この家に長年住んでおられた方の思い出の品々が家の横に積み上げられており、やりきったという気持ちではない複雑な思いになりました。

帰る途中、犠牲者の多かった大川小学校に寄り祭壇に手を合わせていると、遠く学校の前の祭壇に喪服姿の方が手を合わせておられ、津波の被害で通れなくなった橋のところで丁寧にひまわりの花に無言で水をあげておられたひとりの女性の姿が目には焼きついて今も離れません。

ボランティアとは、一度やったからというものではなく、その経験を自分の魂に刻み込み、続ける事にあるのだと気づかせて頂きました。帰りのバスの中で体験発表で「また参加させて頂きたい」という言葉、新大阪に到着後の学生の顔を見ていると、一人ひとり口では言えない何かを感じ、自分のこと以上に他人のことを思いやることのできる生き方に活かしてくれるものだと感じました。今回のことが、今後のボランティアを越えた心の成長、更なる活動につながる架け橋となるべく、形は違っても続けていくことが大切だと感じました。

そして、今回の活動に際しましてご尽力頂きました、日本を美しくする会の阿部さんをはじめ、東

京から見守って頂いている鍵山秀三郎先生、今回参加出来なかった思いのある先生方、バスの手配などで動いて頂きました八尾彰一さんなど、見えないところで動いて頂いている方々のご理解・ご協力があり、今回、石巻の地に学生共々足を運ばせて頂くことができましたことを心より感謝申し上げます。

★★大阪府20代 男性★★

この2日間たくさんのことを見て、聞いて、感じる事ができました。

震災が発生してから4カ月が経つ、今もなお、手の付けられていないところがあるという現実胸が痛くなりました。

普段の生活の中で、ニュースなどを通して少しずつ東北が“復興”していく様を目（耳）にし、何となく心の中でホッとしてるところがありました。

ただ、それはまだほんの一握りに過ぎなかったのですね。

まだまだ、被災地では明日を、そして未来をどう生きていくかという、私たちが考えられないような思いをしながら必死に生活してある人たちがたくさんいらっしゃいます。

こんな方々のために：なんて事は私には決し

て言えません。

だからと言って、この現実を目を背けることはできません。

私にできること、私にしかできないことを考え、これから実行していこうと思います。

日本一心

こんな苦しい、大変な時だからこそ、日本中のみんなが心を一つにしなくてはいけないのですね。

今回のこの活動に参加して、生かされているこの命について改めて考えることができました。

この一回で終わることなく、これからも二回、三回：と続けていこうと思います

★★大阪府30代 男性★★

この被災地に学ぶ会に参加できたこと、心から感謝いたします。ありがとうございます。

すべての出会う方々が魅力的で、「人間って、すばらしい」と深く実感しました。

現地の方や避難所の方、美しくする会の方々、そして参加者の皆さん、本当にすばらしい方ばかりで、たくさんさんの感動をもらい、自分自身、元氣をもらって帰ってきました。

ただ無力な自分を痛感せずにはいられませんでしたが、そこで卑屈になるのではなく、前向きに今回、被災地から学んだことを次につなげていきたいと思っています。

聞けば石巻市の瓦礫総量は616万トン、まだ19%しかその処理が終わっていないそうです。年間に排出されるゴミの量の106年分。まだまだ人の手でしか仕分けできない箇所はいくらでもあることでしょう。継続して被災地に入りたいと思います。

そして教師として自分にできること、心の底から「被災地へ行って何か役に立ちたい」と思っている高校生を何とか現地へ連れて行く支援をしたいと思っています。小さなことからコツコツと積み上げ、学校内で同志を募り、これからも「知覚動考」ともかく動くことを実践していきたいと思っています。ありがとうございます。

★★滋賀県 30代 男性★★
今回で2回目の石巻でのボランティアをさせて頂きました。まずは、日本を美しくする会へ心から感謝を申し上げます。

前回の参加の時も雄勝町立浜でした。その時は半壊のまま、手をつけられない家がいくつもありませんでした。そういうわけで今回立浜に着いて、空い

た時間に前回作業をさせて頂いた所に（今回皆さ
んで作業した所から200メートルくらいの所）
行ってみました。すると、ほとんどの家の取り壊
し作業が終わっていて、以前よりスッキリした感
じになっていました。一歩一歩の積み重ねが、こ
うして確実な復興につながっていくのだなあと
思いました。その場所で作業をしている年配の男
性の方々がおられました。

「でもな、毎日この作業をやっているといやにな
ってくるわ」と話しておられました。私たちに何
ができるのか。すぐには答えは出ませんが、何
がベストかを考えるよりも、心が反応するがまま
に、即行動をとっていきたいと思います。

一日一生。今日一日後悔のない一日となりまし
た。お世話になりましたすべての皆様に心よりお
礼を申し上げます。ありがとうございます。

★★大学生感想文抜粋★★

● 前から何か力になりたいと頭では思ってい
ましたが、一人ではなかなか行動に移せず今
回話しを頂いた時には、すごく嬉しく思いま
した。

● 今回ボランティアに参加させてもらって勉
強になったことは行動しなければ何も変わ
らないという風に思いました。

● 休憩時間に自分たちが休んでいると現地の
方にも飲み物やお菓子など出して頂いたり
喉は乾いていないか？など自分たちを気遣
ってくださったりすごく温かみを感じ、感謝
の気持ちでいっぱいです。

● 最後に被災地の方の「ありがとうございます」って言っ
て頂いた時は、本当に胸が痛くなり、正直涙
が出ました。今後一日だけでも手伝えたい、
どんな事でもいいから被災地の人のため
に！って言う思いがものすごく込み上げて
きました。

● 最後に大川小学校に行つて手を合わした。こ
の時の感情は忘れません。「とにかく全員（遺
体）見つかって下さい」ってそれだけを何回
も祈った。

● 簡単に、安易な気持ちで復興、復興と言えな
いと感じましたし、日本国民が、自分一人と
らいという気持ちを捨て、本当に、一人ひと
りが動かないと、復興は本当にまだまだ先だ
と思いますし、大人の一人ひとりの自覚と社
会的責任が問われているし、本当にやるしか
ないと感じました。

● 小さなことでよくよしていただけないと思
いましたし、もつと人に喜ばれることをした
いと思うようになりました。

★★大阪府20代 男性★★

日本を美しくする会の皆さま、ありがとうございます。ありがとうございました。ただただ自分と向かい合う時間を頂きました。本当にありがとうございます。

おそらく3月11日から手が付けられていないお宅での作業のなか、やはり想像を越える臭いでした。「うっ！」と思いました。かき出せども、かき出せども泥だらけ。

しかし、本当につらい想いをされているのは自分ではない。その想いだけで、作業をしました。帰り際、ある女性と話をさせていただきました。

その方は「本当にありがとうございます。大阪まで帰るんですね？本当に気をつけて帰ってください。ありがとうございます。おかげでとつてもきれいになりました。」と、私たちのことをとても気遣ってくださいました。

もう言葉が出なかつたです。つらい思いをしているのは自分たちなのに、大阪からやってきた私たちの心配までしてくれて…

最後にニッコリ微笑んでくれたおばさん。その顔が忘れられません。

★★大阪府40代 男性★★

たとえば、新郎新婦がケーキカットをしたから

とって、「引出物のケーキは私たちが苦勞してカットしたものなのよ」と恩着せがましく披露宴の参列客に言うだろうか。

被災地の瓦礫の除去は、諸兄弟が仰せの通り、苛酷なものであった。しかし、その家屋は我々が瓦礫の除去を体験するために、わざわざ現地のスタッフの皆様が残して下さっていたと聞いた。参加者の四〇余名が共同でひとつの家屋を担当させていただけのも、スタッフの皆様のおかげで手配の賜物に他ならない。また、熱中症予防のためにテントを張り、仮設トイレを設置して、川の水をテントまで引いて下さり、ポカリやCCレモンの飲み物まで用意して下さったのも現地スタッフの方々のご厚意だ。

これで、もし私が被災地でのボランティア体験を滔々と述べれば、私は冒頭の荒唐無稽な新郎新婦と何ら変わりません。現地に行く機会をたまたま得られない方々に、被災地の状況を伝えるという意味では、体験を語るのもいいだろう。しかし、ボランティアは「させていただいているものなのだ」と心底から感じ、その思いも同時に伝えなければならぬ。でないと、私は実におめでたい人間となってしまう。それはまるで、職場体験学習をした生徒が、労働の尊さを大人たちに説くようなものだ。

石巻市をバスで出たのは夕方の七時二〇分。理

解力の乏しい私は、帰りのバスで十二時間かけて、このようなことばかりぼんやりと考えていた。

自分にできることは何か。本当の支援とは何か。いまだにわからない。今後もその答えを知りたくて、ボランティアをさせていただきたいと強く願うようになった。みなさまのおかげで、私のスイッチがオンになりました。ありがとうございます。

★★三重県40代 男性★★

今回第1回被災地に学ぶ会に参加させていただきまして、たくさんの気づきと学びをいただきました。

今回お世話をいただいた大谷先生を始めとするスタッフの先生方、日本を美しくする会の皆さんに心から感謝いたします。そして、今回一緒にさせていただいた志高い皆さんと共に活動できたことが大変嬉しく思いました。私は、現地で活動をさせていただくと不思議な感覚を覚えます。現地に着くとエネルギーが湧いてきて、一日活動しても疲れていません。被災地での体験は、私のこれまでの人生において経験したことのないさまざまなことが、潜在意識に働き掛けてきて、自分の中の眠っていた力が呼び覚まされている感じがします。「自分が変わる」という変化を感じています。

午前には雄勝町の家屋の泥出しと家財道具の仕分けの学習作業をし、午後は、避難所である鹿妻小学校に案内していただきました。この避難所を切り盛りしていたのは、命以外の全てをなくした被災者の方でした。避難している人が、仮設住宅が当たり、抜けられていく避難所の状態を見て、学校に部屋を返していくという作業をしているところでした。いくつかの避難所を見ってきましたが、ここには元氣と明るさがあると思いましたが、そこは、先頭に立つ人が、避難所で生活しながら、前を向いて立ち上がり、明るく元氣に顔晴っている姿が、この空気を作っていると思えました。

私たちがへの対応も、忙しいはずなのに、心も私たちに向き合ってくれます。私は、忙しいときには、心そこにあらずの対応をしていますが……。

大谷先生から次回の活動の提案をされたときに、その方は「どこに泊まりますか？是非ここに（避難所）泊まってください。」と言われました。

身内とか他人とかという垣根がなくて全てを包み込むような家族のような愛を私たちに放ってくれます。それが、とても心地よくて……、日本人が忘れかけていたものではないかと思えました。避難している人同士がつながりあってお互いの気持ちを大切にしながら日々生活しているコミュニティーがここにはあるんだと思えました。同じように前を向き、立ち上がられた被災者

の方の「全てをなくしたけれど、たくさんの方の愛とつながりによって、勇氣と元氣をいただきました。今ここからふたたびです。」という言葉を出しました。つながることの素晴らしさ素敵さを今強烈に実感しています。それと同時に、今までの自分を悔やんだり反省したりすることが多くなりました。

私は、自分に与えられている今をどう過ごすのが問われていると思っています。この大震災で亡くなられた尊い命、未だ行方不明で見つからないたくさんの犠牲者の方とその家族、東北で被災された人たちのことを思って、真剣に生き、事実を正しく知り折り、余裕とタイミングがあれば自分の力もお金も分ける意識を持つことを忘れないうでいきたいと思えます。ありがとうございます。

★★大阪府20代 女性★★

私は被災地に行かせて頂くのは4回目でした。4回目ということで、私の無意識なところで慣れが出てきてしまつて、最初は何もかも新鮮で素直に感じられたことが、何回も行っているうちに当たり前のことになってきてしまつていて、何事にも感謝する気持ちとか、現地の方に思いを馳せる姿勢とかが薄れていたように思います。しかし、

今回は、それぞれに熱い思いをお持ちの先生方、野球部の学生さん方、社会人の方との学びあいのおかげで、私の中で被災地に純粹に素直に学ぶ姿勢を思い起こすことができました。

気温が高くなってきて、臭いが増してきて、たくさんの方のハエがいるという状況の中での作業は、私が今まで被災地を訪れた中では一番きつい環境になっていて、作業中、手は動いているものの、私は、心の中で、臭い、嫌だ、早く作業が終わらないかな…というネガティブな気持ちが渦巻いていました。たまに口に出して臭い、汚い、ハエが嫌だ…というように言ってしまったのも覚えていません。そういうネガティブな気持ちがあつたり、口に出してしまつたりすることが表しているものの裏には、自分が作業させていたでいるという謙虚な気持ち、感謝の気持ちがないです。し、このような過酷な状況の中で、果てしなく見える撤去作業を、文句を言っていられないという雰囲気の中で、復興に向けて毎日毎日頑張つていらっしゃる現地の方にとっても失礼なことである、ということに気がつきました。このことで、私は私の心の弱さと、被災地の方はとても強い心で現実に向き合っているのだなということを再確認しました。今後、被災地に行かせて頂く機会があるときは、私の無意識のところにある、自分が主体の、ありがとうございますと言われるがために、やつて

あげているという気持ちを排除して、現地の方が主体で向き合い続けている被災地の復興の一部のお手伝いを、現地の方の受け入れのもとさせていただいているという謙虚な気持ちで行かせて頂くというのを、もう一度強く思います。

そして、大川小学校に伺わせて頂いたことがすごく衝撃を受けました。何も言えなかったです。こんな私が何も言っただけはいけないような気もしました。ただ強く思ったことは、無駄にしません、ということ。私がこの場に連れて来て頂いて、感じたこと、見てきたことを無駄にはしません、ということを強く思いました。

最後になりましたが、今回、被災地に行くことを希望していたのに、定員の関係で行くことが出来なかった方もいらっしゃる中で、特別に何が出来るわけでもない私を被災地に連れて行ってくださって、本当にありがとうございます。

私は今回で被災地に行かせて頂くのに、一度区切りを付けさせて頂いて、膝の治療に専念します。手術以降、私が作業できるぐらいにまで回復するのは、十月頃になると思います。被災地には、継続して伺わせて頂きたいと思っておりますので、今回感じた気持ちを無駄にしないように、また活動させて頂きたいと思えます。

★★広島県20代 男性★★

2011年3月11日午後2時46分、世界最大級M9.0の大地震が日本を襲いました。岩手、宮城、福島を中心に地震、津波、原発で大変な被害となつています。震災後は、毎日のようにニュースで流れていましたが、日を追うごとにその情報も少なくなってきました。広島にいながらできることは、被災地のことを知ること、コンビニエンスストアでの募金でした。被災地に行つて何かしたいけれど時間がない、どうやって行けばいいのかわからないという言い訳をしていた自分。いた気がしません。そんなとき、金先生からメールをいただき、「知覚動考(ともかくうごこう)」の言葉が浮かび参加させていただきました。

7月9日(土)に東日本大震災で被災した宮城県石巻市雄勝町の立浜地区に瓦礫(がれき)撤去に行きました。いつも新聞やニュースなどで情報を得ているので、ある程度のことには知ったつもりになっていましたが、現地に行つてみるとわからないことがたくさんありました。

一番大きかった学びは、「瓦礫は、がれきではない」ということです。その家の人たちの大切なもの(お金、アルバム、賞状、服、家の一部、漁の道具など)がたくさんありました。それを一つひとつついでいねいに片づけさせていただきました。大切なものが一瞬にして奪われる悲しみは、想像

を絶するものがあります。今ある普段どおりの生活に感謝せずにはいられません。

石巻市立大川小学校にも行くことができませんでした。勢いよく津波が押し寄せて、この場所で多くの尊い命がなくなつたこと、そのときの状況を想像するだけで胸が痛くなります。橋のたもとに、ヒマワリを植えておられました。大輪の花を咲かせて、みんなの想いが天に届いてほしいです。

また、被災された漁師の方々にもお話を聞くことができませんでした。堤防の門扉を閉め、坂道を駆け上がり、後ろから津波が迫ってくる中、命からがら逃げ切つた消防団長さんの話の中で「すぐに元に戻します！」と力強く語っておられたのが印象的でした。若い漁師さんは、「チャンスだと思つているんです。」と話しておられました。漁に出ることを断念する高齢の方がいる中で、自分ができる範囲が増えるからです。まさに「ピンチはチャンス」だと思いました。バスまで見送りに来てくださった漁師さんは、「わたしたちがいることを忘れないで、この現状を多くの人に伝えてください。」「みなさんが来てくれてうれしい。本当にありがとうございます。」と言われたときは、目頭が熱くなりました。

これからも自分の命を懸命に生きて、被災地に生きる方々のことを思い、祈りを届けていきたいと思えます。

7月11(月)地震から4ヶ月、子どもたちと今回の大震災についての話をしました。2ヶ月目のとき以来、2回目の学習です。私が被災地に行つて、見たこと、聞いたこと、感じたことを話しました。子どもたちにも、いろいろな思いが加わつたようでした。

子どもたちの感想を載せます。(原文のまま、一部抜粋)

- ・ いろいろなものを失つても、いっしょうけんめいに生きているのがすごいと思いました。
- ・ 私も、じしんがおきた場所に行つて、道路や、いろんなところをたくさんきれいにして、喜んでもらいたいです。
- ・ また、新たにくわしく知るとぼくが思つていた以上にすごくこわいことがわかりました。石巻市立大川小学校は、ぼくらと同じくらいの生徒だったのに、死者：68人と行方不明6人とこんなにたくさんの子どもがいなくなったのを聞いてぼくは、「自分たちは幸せだな。」と思いました。
- ・ こうやって、学校で勉強できること、幸せだと思いました。今、私がしているふつうの生活は、東日本大震災を知つてこれはふつうじゃない、とても幸せなことなんだなと思ひました。

・ 大切な物が、いっしょんでガレキになるのはいやです。ぼくは、なにか、いいことをしたいです。

・ ぼくはいまでも自分ができることをわかつていませんでした。(中略)ぼくはこれからいっしょうけんめい生きようと思いました。

・ この地震で、多くの命がうばわれました。ぼくには、何もできないけど、今、自分の生活を幸せに思い、明日を信じて生活したいと思つた。

- ・ 東日本の人は、強いと思いました。漁師さんの話で、「すぐにもと通り」や「ピンチをチャンスに」などすごくがんばつていふというのが伝わってきました。これからは、テレビやニュースを見守つていたいと思います。
- ・ 今日で4ヶ月目ガレキの山があつた。そのガレキの中には、大切な物があつたと思う。もつたいたいと思う。一しゅんの出き事で大切な物をなくした。わたしも姉妹お母さんお父さんとはなれたくないと思つた。いまいるわたしたちをささえてくれる人に感謝します。
- ・ 心がつよくていいなあと思ひました。わたしも好きな物を見つけたいです。
- ・ だれかが困つていたらすぐたすけてあげられるようになりたいと思ひました。
- ・ 早くふつこうしてみんなが元気よくえがおに

ハッピーにすごせるようになってほしいです。これからも被災地を訪れ、その現状を子どもたちに伝え続けていきたいと思ひます。その中で、お互い何か学ぶことがあればと思ひます。今回の訪問では、「日本を美しくする会」および「大阪便教会」の方々にすべてのことと段取り、準備をしていただき本当に感謝しております。ありがとうございました。

★大阪府30代 男性★

今回、第一回被災地に学ぶ会に参加させて頂き本当にどうもありがとうございました。これまでの自分はボランティアに参加したいと思つてもそう思うだけで行動は起こさない人間でした。松浦先生からお誘いを受けた時は、自分が果たして役に立つのかという不安はありましたが、ともかく行動してみないと何も始まらないと思ひ参加を決意しました。

実際に参加を決めて自分もいざ参加するのだという気持ちになつて初めてボランティアや復興支援のために被災地に向かう人の思いや葛藤の一部を感じることができました。それまでは、被災地に向かう人の気持ちをあまり想像できませんでしたが、そもそも想像しようとも思ひませんでした。ボランティアだから仕事だから被災地

に向かっているのだという程度の認識だった自分に気づくことができました。

宮城県に入って被災の様子をバスから初めて見たときは不思議な感じがしました。舗装された道をスムーズに進んでいることやクローラーの効いたバスの中いることとガラス越しに見える被災の様子のギャップが嘘のようで、それをリアルに受け止められない自分がいました。平和な日常に慣れすぎている自分に気付きました。また現地に入り海の気配がないようなところが被災していたのは驚きで、リアス式海岸特有の地形が津波に弱いということを実感をもつて感じるようになりました。

今回の活動は家の中の物を分別して外に出すというものでしたが自分の想像以上に大変でした。活動が進み中まで進めるようになると中の臭いは強烈でしたし、腐敗したようなものもありましたし、正直、心が折れそうになりました。できることなら中には入りたくないし、腐敗したようなものが服には付かないようにしたいと思いましたが。改めて自分の弱さを思い知らされました。そのような中、黙々と活動を続けられる先生方を見て、自分も頑張らなくてはと自然に思えました。自分一人だけならば恐らく途方に暮れているだけでした。

あれこれ考えるのではなくともかく行動する

この大切さや自分や他者の行動が周りに何らかの影響を及ぼすということを持て知ることができました。